

---

## わが国における保育実践の史的考察 —— 横川楳の八王子幼稚園を中心にして ——

保育科 師 岡 章

本研究は、わが国において保育実践がどのような変遷を辿ってきたのかについて、史的に考察することを目的とした。当該研究期間においては、わが国が独自に養成した保育者第一号と見なされる横川楳が、東京女子師範学校附属幼稚園を退職後、自ら開園した八王子幼稚園を対象とし、その特徴を明らかにした。結果は、概ね以下の通りである。

1) 1878 (明治 11) 年、25 歳となった横川楳は 2 月 26 日付けで、大阪府から派遣された氏原鋳、木村末と共に、わが国最初の本格的な幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園の見習い生となり、保育に従事し始める。同年内に幼稚園保姆実地保育法を修め、12 月 24 日東京女子師範学校附属幼稚園から第 1 号の修了証を得る。そして同日、同園の正式保姆として採用される。まさに、国産保育者第 1 号と言ってよい存在であった。

2) 1884 (明治 17) 年、父の死去に伴い、横川楳は同園を退職し、実家の八王子に戻る。翌

年、自宅にて女子教育教授所を開設するが、交通不便なため、移転を検討。紆余曲折の後、本立寺の援助を受け、1892 (明治 25) 年、八王子女子学校 (現 南多摩高校) と幼稚園の設立に至る。当時、八王子は神奈川県であったが県内私立幼稚園の第一号となった。

3) 八王子幼稚園のカリキュラムは、東京女子師範学校附属幼稚園のものと酷似しており、わが国幼稚園成立期において主流となった恩物中心の実践を展開していた。また、幼稚園に先立ち女学校を設立したこと。また、1907 (明治 40) 年、経営難から東京都に寄付する際も、女学校のみを存続させたことを見ても、横川楳の幼稚園像が女子教育の一環であったことが伺われる。現在においても子ども中心の幼稚園教育が十分に展開されていない要因を探る上で、ひとつの典型例を示すと考えられる。

今後は、この点の考察をより深めることが求められる。次年度以降の研究につなげたいと思う。

---

## 社会とヒューマニズム —— 誰もが住み続けられる社会をどう築くか、 先進自治体の取り組みの普遍化を模索する ——

保育科 佐 野 英 司

本研究は、2006 年 3 月 31 日までの二カ年間研究であり、現段階で報告できる段階にはいたって

いないのが実情である。しかし、当初の研究予定よりも遅れていることは事実であり、ここに中間